ニュースリリース

2024 年以降のエネルギー市場動向に関するアンケート調査
スキッピングストーンが集計結果を発表

東京 ― 2024 年 2 月 1 日 ― スキッピングストーンは、2024 年以降のトレンドを探るため、世界中のエネルギー業界の経営幹部を中心に、エネルギートランスフォーメーションに関する命題についてアンケート調査を行いました。本調査レポートでは、集計結果を米国、日本、その他の国々の 3 つに分けて比較しています。

下記の例を含め、多くの命題において、自国政府の目標・努力義務と回答者の見解との間に乖離が見られました。

- 日本、米国の多くの州と 140 ヶ国以上が 2050 年までの脱炭素目標を定めている。
  - 米国の回答者の 75%、日本およびその他の国々の回答者の 69%が、目標達成の可能性は「低い」または「非常に低い」と回答。
- EV の普及を後押しする規制は世界的に広がっており、多くの国では 2035 年以降にガソリン車販売の廃止が義務付けられている。
  - 全回答者の約 3 分の 1 は、2050 年までに EV が全車両の 50～70%を占めると考えており、70%を超えるという回答はごくわずか。
- CO2 削減目標を達成するための要として、石炭火力発電所の廃止に向け世界的に大きな圧力がかかっている。
  - 日本とその他の国々の回答者の 38%、そして米国の 24%は、石炭火力発電所が完全になくなる事はないと回答。

スキッピングストーン米国法人の会長兼 CEO であるピーター・ウェイガンド氏は、「上記の例だけでなく、水素、マイクロ炉、ロシア産 LNG、CO2 回収、AI などのトピックに関するアンケート

結果はいずれも意外なものでした。政府が打ち出す努力義務や補助金、投資、マスコミの報道、そして COP24 のような世界的イベントが盛り上がりを見せる中、エネルギー業界全体が脱炭素に対して前向きだと考える方は多いでしょう。しかし我々の調査結果は、現実がそうでもないことを明らかにしました」と述べています。

スキッピングストーン合同会社の代表取締役社長、奥山博司氏は「私たちが今回調査したほとんどの分野において日本政府の支援があり、国が強く促進しているにも関わらず、日本のエネルギー業界関係者の多くは目標達成への期待値が低いことが明らかとなり、興味深い結果となりました」と語っています。

アンケートの詳細な結果（無料）については、下記の連絡先までお問い合わせください。

スキッピングストーンについて

スキッピングストーンは、電力・ガス企業の最高経営責任者として業界の専門知識及び豊富な経験を有するエキスパートが設立した、受賞歴のあるグローバルな電力・ガス専門コンサルティング・テクノロジーサービス会社です。環境変化への対応支援から、投資機会の実現化、事業リスクマネジメントに至るまで、電力・ガスを専門とする各業界の異なる領域を超えて、これまで 300 社超のお客様を支援して参りました。ボストンに本社を置き、アトランタ、ヒューストン、ロサンゼルス、東京、シンガポール、ロンドンにオフィスを構えています。

詳しくはホームページをご覧ください。
日本語：www.SkippingStone.co.jp、英語：http://www.SkippingStone.com

メディア連絡先

スキッピングストーン合同会社
Japan_Info@skippingstone.com
03-6435-6600